内科専攻医・指導医の皆さまへ

修了認定編

内科専門研修の修了認定・専門医試験への出願

日本内科学会専門医制度審議会
J-OSLER検討委員会

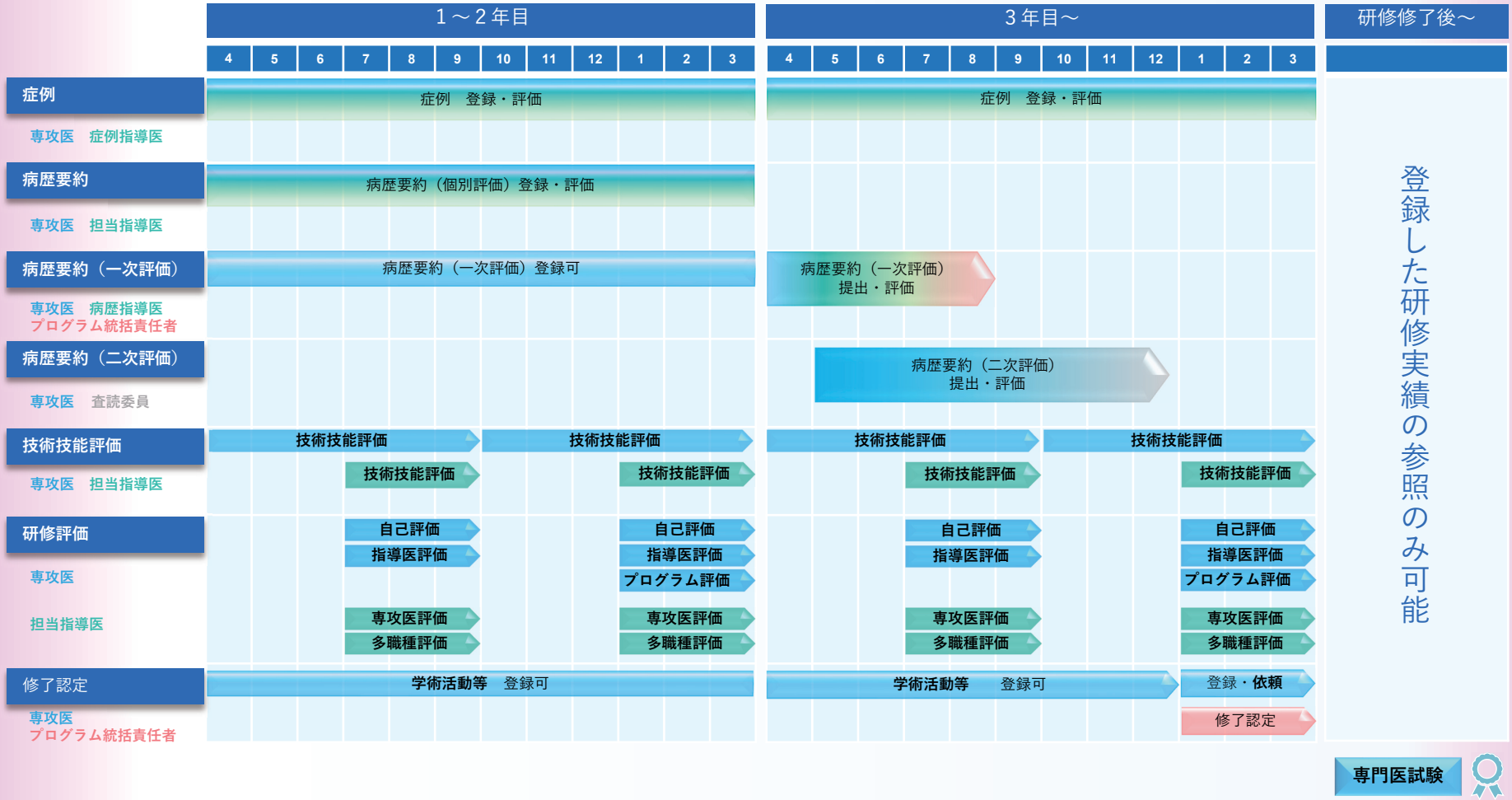
2021年5月

Online system for **S**tandardized **L**og of **E**valuation and **R**egistration of specialty training system

内科版J-OSLER年間スケジュール（標準）

内科専門研修を3年間で修了を目指す場合

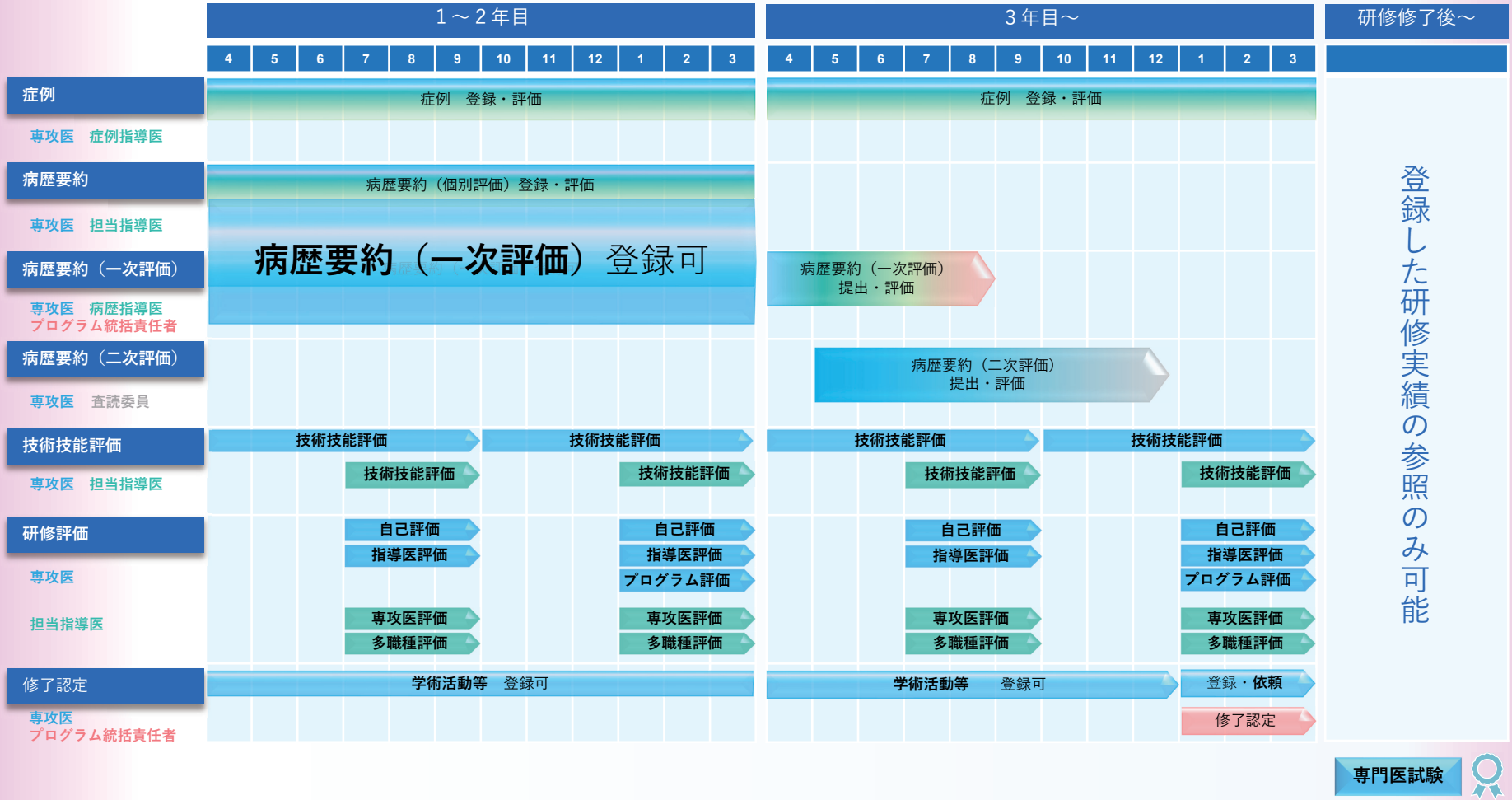
内科学会HP＞　J-OSLERトップ＞　登録と評価＞　専門研修の流れ
https://www.naika.or.jp/jsim_wp/wp-content/uploads/2020/12/NAIKA_J-OSLER_standard_schedule_A4_2.pdf



内科版J-OSLER年間スケジュール（標準）

内科専門研修を3年間で修了を目指す場合

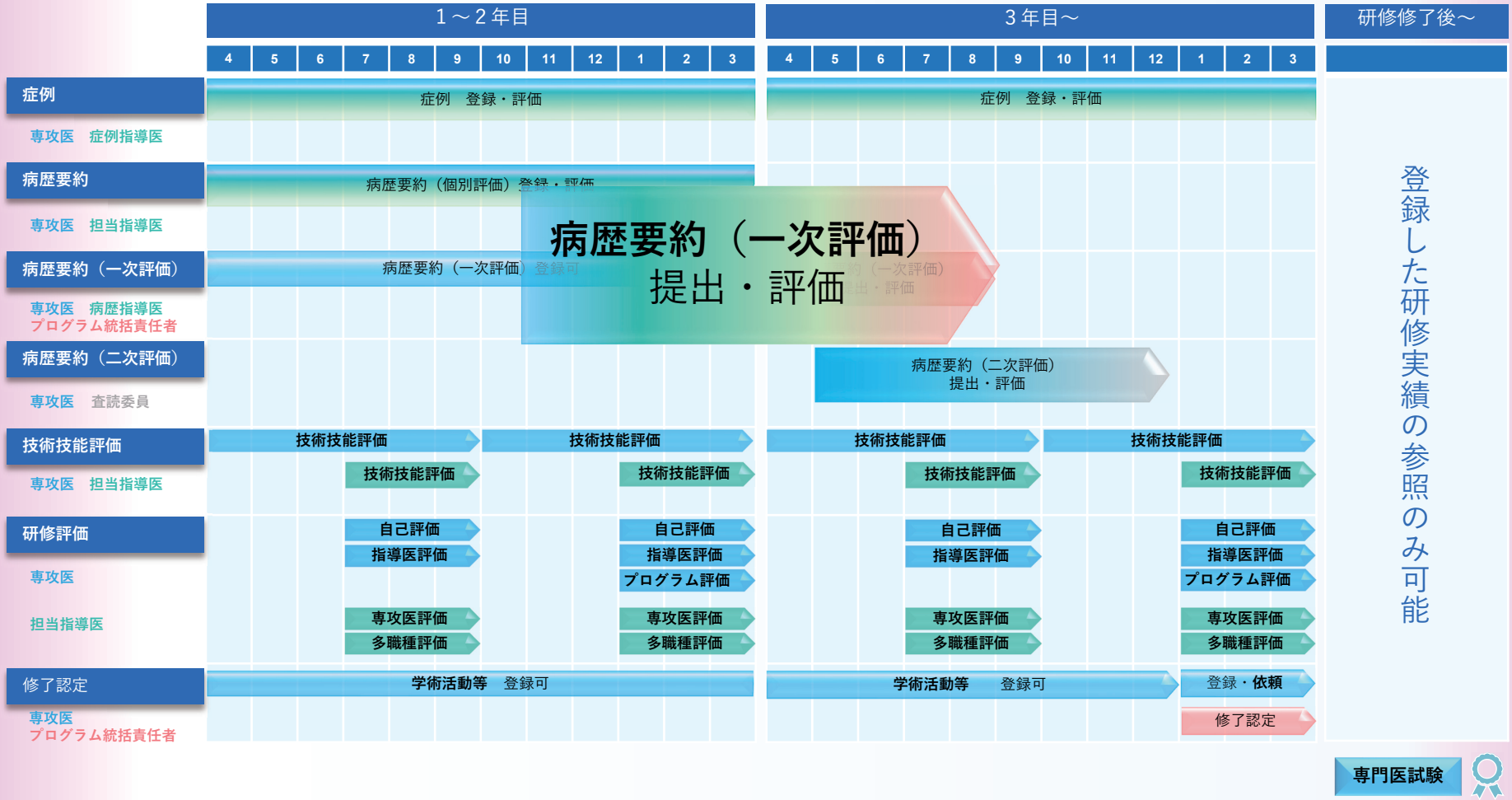
内科学会HP＞　J-OSLERトップ＞　登録と評価＞　専門研修の流れ
https://www.naika.or.jp/jsim_wp/wp-content/uploads/2020/12/NAIKA_J-OSLER_standard_schedule_A4_2.pdf



内科版J-OSLER年間スケジュール（標準）

内科専門研修を3年間で修了を目指す場合

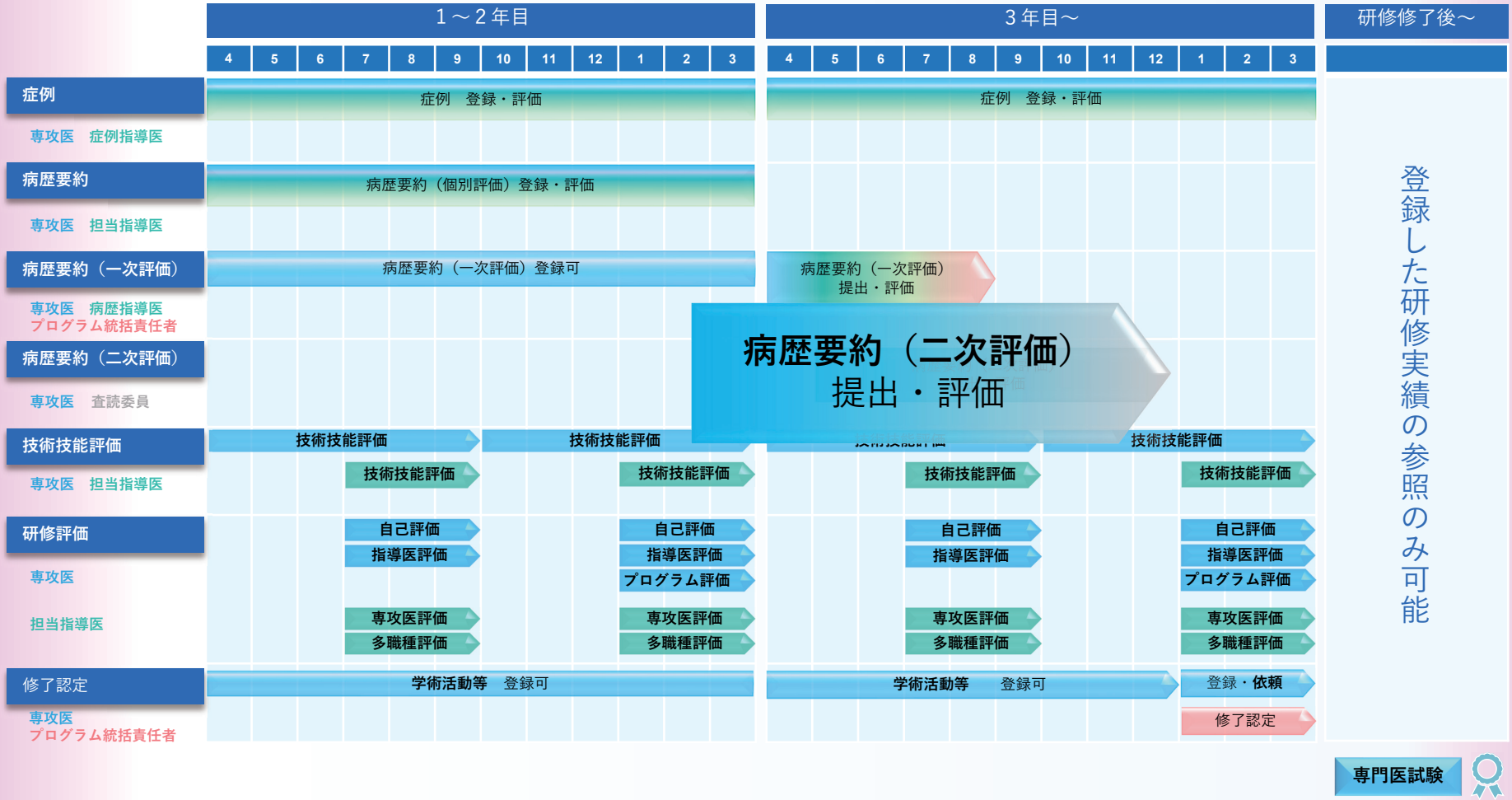
内科学会HP＞　J-OSLERトップ＞　登録と評価＞　専門研修の流れ
https://www.naika.or.jp/jsim_wp/wp-content/uploads/2020/12/NAIKA_J-OSLER_standard_schedule_A4_2.pdf



内科版J-OSLER年間スケジュール（標準）

内科専門研修を3年間で修了を目指す場合

内科学会HP＞　J-OSLERトップ＞　登録と評価＞　専門研修の流れ
https://www.naika.or.jp/jsim_wp/wp-content/uploads/2020/12/NAIKA_J-OSLER_standard_schedule_A4_2.pdf



内科版J-OSLER年間スケジュール（標準）

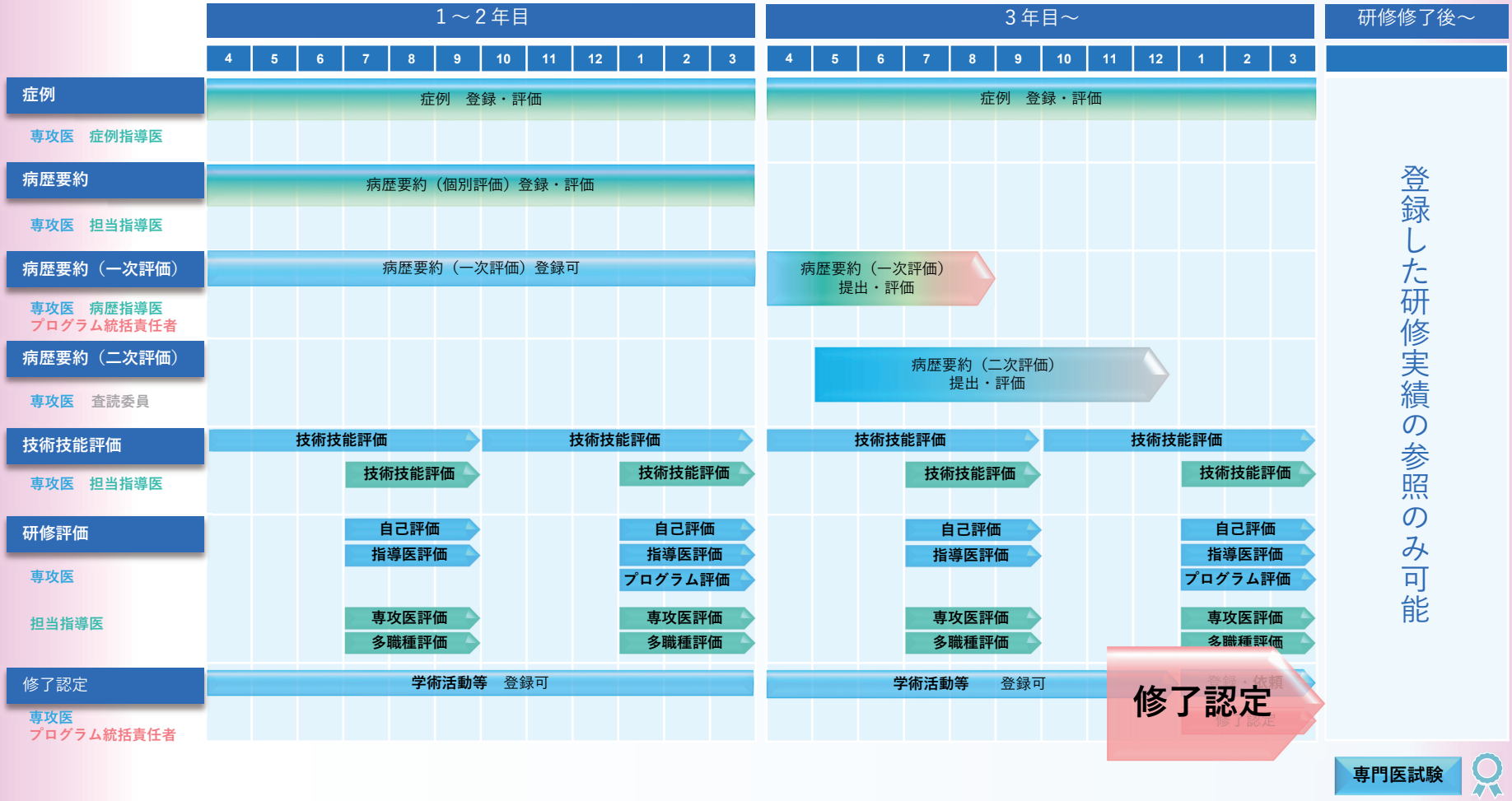
内科専門研修を3年間で修了を目指す場合

内科学会HP＞　J-OSLERトップ＞　登録と評価＞　専門研修の流れ
https://www.naika.or.jp/jsim_wp/wp-content/uploads/2020/12/NAIKA_J-OSLER_standard_schedule_A4_2.pdf

内科版J-OSLER年間スケジュール（標準）

内科専門研修を3年間で修了を目指す場合

内科学会HP＞　J-OSLERトップ＞　登録と評価＞　専門研修の流れ
https://www.naika.or.jp/jsim_wp/wp-content/uploads/2020/12/NAIKA_J-OSLER_standard_schedule_A4_2.pdf



内科専門研修プログラムでの教育・学術活動（必須）

内科専門研修プログラム整備基準　（2017年8月21日）

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず、これらを自ら深めてゆく姿勢である。 この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となる。このため、症例の経験を深めるための学術活動と 教育活動とを目標として設定する。

教育活動（必須）

1）初期臨床研修医あるいは医学部学生の指導を行う。
2）後輩専攻医の指導を行う。
3）メディカルスタッフを尊重し、指導を行う。

学術活動

4）内科系学会の学術集会や企画に年2回以上参加する（必須）。
　※推奨される講演会として、日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPCおよび内科系サブスペシャルティ学会の学術講演会・講習会など。
5）経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行う。
6）クリニカルクエスチョンを見出して臨床研究を行う。
7）内科学に通じる基礎研究を行う。

〈上記のうち5）～7）は筆頭演者または筆頭著者として学会あるいは論文発表を2件以上すること〉

内科専門研修プログラムの修了判定基準

内科専門研修プログラム整備基準　（2017年8月21日）

1）統括責任者は，**J-OSLERを用いて研修内容を評価**し，以下 i)～vi) の修了を確認.

i）**主担当医として**「研修手帳（疾患群項目表）」に定める**目標：全70疾患群**を経験し，計**200症例以上**（外来症例は20症例まで含むことができます）を経験し，J-OSLERに登録，指導医の承認済.
修了認定：主担当医として通算で最低56疾患群以上の経験と計160症例以上の症例（外来症例は登録症例の1割まで）を経験し，登録，指導医の承認済.

ii）**29病歴要約が内科学会二次評価による査読・形成的評価を経て受理**.

iii）所定の2編の学会発表（抄録またはプログラムのコピー）または論文発表（論文の別刷りまたはコピー）の登録

iv）JMECC受講（修了証）の登録

v）プログラムで定める講習会受講
医療倫理･医療安全･感染制御に関する講習会：任意の異なる組み合わせで年間2回以上の受講すること(受講証明書または自筆のメモ書きがある配布資料など).

vi）**J-OSLERを用いてメディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）**と**指導医による内科専攻医評価**を参照し，社会人である医師としての適性に疑問がない.

2）研修プログラム管理委員会は，当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認，研修期間修了約1か月前に研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定．修了認定後J-OSLERから内科専門研修修了証を発行できる.

修了判定基準の登録・確認①

病歴要約評価と修了判定（病歴要約評価の流れを中心に）
https://www.naika.or.jp/jsim_wp/wp-content/uploads/2019/12/josler_judgment_excerpt.pdf

修了判定基準の登録

STEP1 登録 ▶ STEP2 確認 ▶ STEP3 完了

管理情報

専攻医	内科　太郎
プログラム統括責任者（正・副）	内科　四郎

経験すべき疾患・病態

二次評価完了日	2020/07/15 16:30

分野	症例数	疾患群数	病歴要約数
総合内科Ⅰ（一般）	10	1 / 1	2
総合内科Ⅱ（高齢者）	10	1 / 1	
総合内科Ⅲ（腫瘍）	10	1 / 1	
消化器	10	7 / 5	3
循環器	10	7 / 5	3
内分泌	10	3 / 2	3
代謝	10	4 / 3	
腎臓	10	7 / 4	2
呼吸器	10	7 / 4	3
血液	10	2 / 2	2
神経	10	5 / 5	2
アレルギー	10	2 / 1	1
膠原病	10	2 / 1	1
感染症	15	3 / 2	2
救急	15	4 / 4	2
外科紹介症例	–	–	2
剖検症例	–	–	1
合計数	160	56	29

半期ごとの研修評価（登録日時）

	2018年 上期	2018年 下期	2019年 上期	2019年 下期	2020年 上期	2020年 下期	
自己評価	2018/7/1	2019/1/1	2019/7/11	2020/1/1	2020/7/21	2021/1/1	参照
指導医評価	2018/7/2	2019/1/2	2019/7/12	2020/1/2	2020/7/22	2021/1/2	参照
プログラム評価	2018/7/3	2019/1/3	2019/7/13	2020/1/3	2020/7/23	2021/1/3	参照

経験すべき診察・検査等

技術・技能評価　※指導医からの最新の評価を表示しています。

凡例

総合内科Ⅰ（一般）	★★★★☆	呼吸器	★★★☆☆
総合内科Ⅱ（高齢者）	★★★½☆	血液	★★★☆☆
総合内科Ⅲ（腫瘍）	★★★☆☆	神経	★★★☆☆
消化器	★★★½☆	アレルギー	★★★☆☆
循環器	★★★★☆	膠原病及び類縁疾患	★★★☆☆
内分泌	★★★½☆	感染症	★★★★★
代謝	★★★☆☆	救急	★★★½☆
腎臓	★★★☆☆		

到達度の自己評価 必須　★★☆☆☆

経験すべき手術・処置等

JMECC

受講日時 必須	
JMECCコース認定番号 必須	
修了証 必須	ファイルを選択

地域医療の経験

病診・病病連携・地域包括ケア・在宅医療など

到達度の自己評価 必須	★★☆☆☆
経験した地域医療	□ 病診の経験 □ 病病連携の経験 □ 地域包括ケアの経験 □ 在宅医療などの経験

修了判定基準の登録・確認②

病歴要約評価と修了判定（病歴要約評価の流れを中心に）
https://www.naika.or.jp/jsim_wp/wp-content/uploads/2019/12/josler_judgment_excerpt.pdf

学術活動

教育活動

到達度の自己評価 必須	初期研修医あるいは医学部生の指導	★★☆☆☆
	後輩専攻医の指導	★★☆☆☆
	メディカルスタッフの尊重および指導	★★☆☆☆

内科系学術集会への参加
（推奨として、日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPCおよび内科系サブスペシャルティ学会の学術講演会・講習会など。）

1回目	参加日 必須	
	学術集会名 必須	
	参加票	ファイルを選択
2回目	参加日 必須	
	学術集会名 必須	
	参加票	ファイルを選択
3回目	参加日 必須	
	学術集会名 必須	
	参加票	ファイルを選択
4回目	参加日 必須	
	学術集会名 必須	
	参加票	ファイルを選択
5回目	参加日 必須	
	学術集会名 必須	
	参加票	ファイルを選択
6回目	参加日 必須	
	学術集会名 必須	
	参加票	ファイルを選択

評価追加 ※10件目まで追加入力ができます。

プログラムで定める講習会の受講
（医療倫理・医療安全・感染制御に関する講習会：任意の異なる組み合わせで年間2回以上の受講すること。）

1回目	受講日 必須	
	講習会名 必須	
	ファイル	ファイルを選択 ※受講証明書または自筆のメモ書きがある配布資料をアップロードしてください。
2回目	受講日 必須	
	講習会名 必須	
	ファイル	ファイルを選択 ※受講証明書または自筆のメモ書きがある配布資料をアップロードしてください。
3回目	受講日 必須	
	講習会名 必須	
	ファイル	ファイルを選択 ※受講証明書または自筆のメモ書きがある配布資料をアップロードしてください。
4回目	受講日 必須	
	講習会名 必須	
	ファイル	ファイルを選択 ※受講証明書または自筆のメモ書きがある配布資料をアップロードしてください。
5回目	受講日 必須	
	講習会名 必須	
	ファイル	ファイルを選択 ※受講証明書または自筆のメモ書きがある配布資料をアップロードしてください。
6回目	受講日 必須	
	講習会名 必須	
	ファイル	ファイルを選択 ※受講証明書または自筆のメモ書きがある配布資料をアップロードしてください。

評価追加 ※10件目まで追加入力ができます。

修了判定基準の登録・確認③

病歴要約評価と修了判定（病歴要約評価の流れを中心に）
https://www.naika.or.jp/jsim_wp/wp-content/uploads/2019/12/josler_judgment_excerpt.pdf

筆頭演者または筆頭著者として学会あるいは論文発表

1件目 必須	年月	
	タイトル	
	写し	ファイルを選択
2件目 必須	年月	
	タイトル	
	写し	ファイルを選択

評価追加 ※5件目まで追加入力ができます。

研修歴

No.	研修実績	期間	所属	補足
1	○ 研修 ○ 休職等	～		
2	○ 研修 ○ 休職等	～		
3	○ 研修 ○ 休職等	～		
4	○ 研修 ○ 休職等	～		
5	○ 研修 ○ 休職等	～		
6	○ 研修 ○ 休職等	～		
7	○ 研修 ○ 休職等	～		
8	○ 研修 ○ 休職等	～		
9	○ 研修 ○ 休職等	～		
10	○ 研修 ○ 休職等	～		

評価追加 ※20件目まで追加入力ができます。

専攻医からのコメント

専攻医からのコメント	

一時保存　印刷・PDF化　確認画面へ進む

プログラム統括責任者の画面

1）専攻医が入力した内容が表示される。
⇒PDFを印刷することで、プログラム管理委員会の資料などに活用できる。

2）「プログラム管理委員会で修了認定しました」というチェックボックスと認定日付を入力する項目を追加することで、「修了判定」が登録される。

内科専門研修修了証

領域名	内科 J-OSLER
専攻医名	本郷　四五郎
プログラム名	◆◆◆プログラム
研修開始日	2017年4月1日
修了年月日	2021年12月31日
修了認定番号	0000000013-011

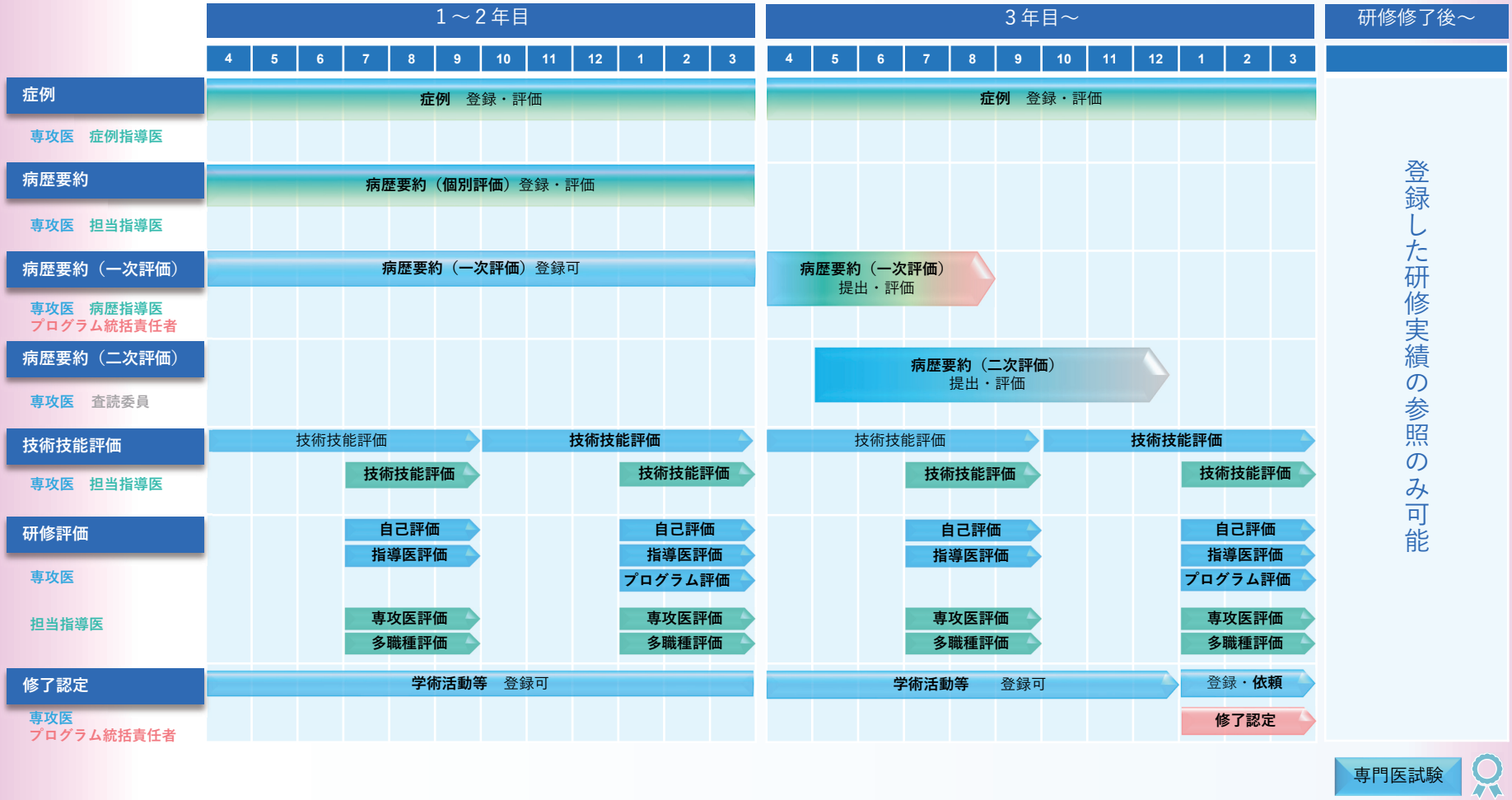
上の者は、内科専門研修を修了したことを認定する。

2021年12月31日
◆◆◆プログラム
プログラム統括責任者
菱田　太郎

内科版J-OSLER年間スケジュール（標準）

内科専門研修を3年間で修了を目指す場合

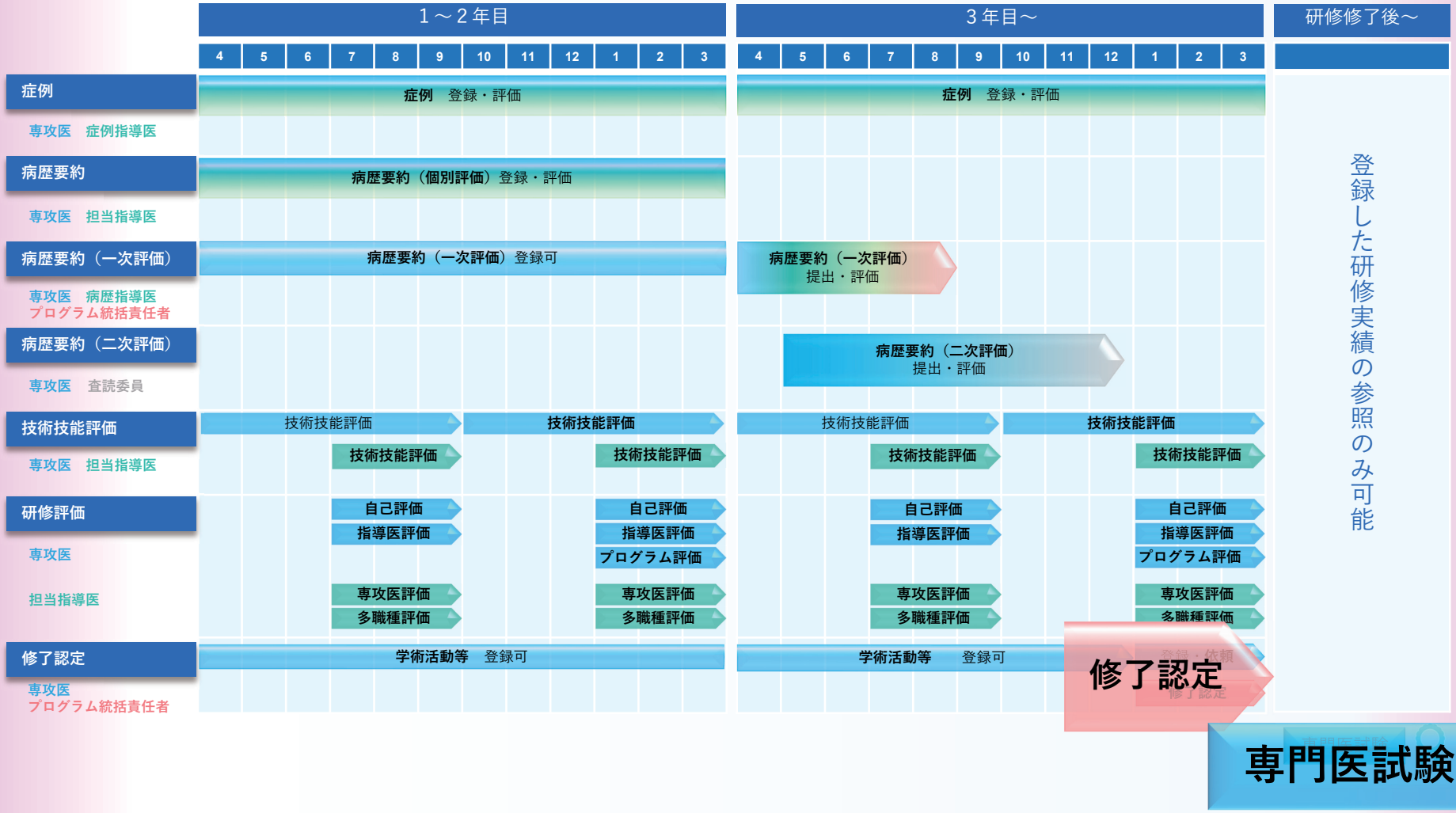
内科学会HP＞　J-OSLERトップ＞　登録と評価＞　専門研修の流れ
https://www.naika.or.jp/jsim_wp/wp-content/uploads/2020/12/NAIKA_J-OSLER_standard_schedule_A4_2.pdf



内科版J-OSLER年間スケジュール（標準）

内科専門研修を3年間で修了を目指す場合

内科学会HP＞　J-OSLERトップ＞　登録と評価＞　専門研修の流れ
https://www.naika.or.jp/jsim_wp/wp-content/uploads/2020/12/NAIKA_J-OSLER_standard_schedule_A4_2.pdf



J-OSLER ＝ WEB内科専門研修手帳

専攻医の努力＋指導医の形成的指導

双方向性の研修評価

プログラム内評価 ＋ プログラム外評価

プログラム管理委員会による修了認定

専門研修の標準化・見える化・質の担保

内科専門研修・指導の証を、適切にJ-OSLERに登録して、
generalityとsubspecialtyの調和のとれた
全人的視野で診療できる内科専門医を目指す